

活動状況報告（10月）

スポーツコース 5期生 太田 ゆき菜

今月は wheelchair track team の遠征に帯同させてもらえたので、その大会を中心にレポートしたいと思います。

今回帯同した大会はシカゴマラソンで車いすマラソンの主要な世界大会の一つです。イリノイ大学のトラックは USA のナショナルトレーニングセンターでもあるので、今回の遠征もほとんどがパラリンピアンという精鋭チームでした。シカゴのホテルに着くと既にマラソンのお祭りムード、シカゴマラソン一色に染まっていました。大会前日の朝は各国の選手が集まって皆でロードの練習に向かいました。各国の旗を立て、たくさんのレーサーが連なり練習に向かう様子は圧巻で、とても印象に残る光景でした。今大会女子に関しては1位から4位までイリノイ関係の選手が表彰台を独占しました。日頃トレーニングサポートをしている選手達が戦っている姿や結果を出す姿を目の前で見られることはとても嬉しいことです。また、その裏で私は当日の練習までやってみたものの、怪我の痛みが強くて数分前に棄権する決断をした選手についていたので、彼女の色々な葛藤も感じながらの大会となりました。陸上は個人競技なので、車いすバスケなどの団体競技とはまた違ったコーチングを間近で見れたこともとても勉強になります。また、シカゴマラソンは健常の選手たちもたくさん集まるので、ものすごくたくさんの人たちがレーサーで選手が走るところを見て、応援し、興奮しているところがまた良いなと思いました。ちなみに車いす部門にも賞金が出ます。健常の大会に車いすの部門があるというのはパラスポーツをまぜてもらうという意味ではとても良いと思いますし、他にもハンドサイクルの部門や、重度の障がいにより自分で車いすをこげない人を押して走ったり、ブラインドやアンプティーなどごちゃ混ぜの Athletes with disability という部門もありました。色々な立場の人たちがそれぞれ多様な方法でマラソンに出場できる機会があるというのは本当に良いことだと感じます。

この留学では、日々のトラックやロードでの練習、Gym でのトレーニング、遠征、大会、スタッフ陣や選手の様子を長期間通してみれることで、どのようにチームのシステムが作られているのかを学ぶことができ、本当にありがたいなと思います。イリノイ流のものも色々ありますが、それと同時に全ての基礎はやはり日々の地道な練習であり、それは世界共通だということも痛感します。さらにトラックチームの使用している Gym や地下の練習場はとてもコンパクトであり、これくらいのスペースがあればここまで出来るのだということも感じます。日本でパラスポーツに関して、練習場所がない、施設がないなどよく話題になりますが、意外と狭いスペースでもやれるとも感じます。そう考えると日本に適應できる部分も多くありますし、日本にも実は練習できる場所はもっとたくさんあるんじゃないかなとも感じます。固定概念や発想をチェンジすることでもっともっとできることもあるかもしれません。イリノイは毎日多くの学びのタネがある環境です。マラソンシーズンもあとわずかですが、トレーニングはまだまだ続いていきます。恵まれた環境で毎日を過ごしていることに感謝し、引き続き学びながらレポートもしていきたいと思います。

また、10月は日本や北海道の紹介をする機会を多くいただきました。学内のイベントで日本の文化を発信したり、折り紙や筆ペンでの文字書きの体験ブースを出したりと多くの学生に興味を持ってもらうことができました。また、授業のプレゼンテーションで北海道の観光スポットやアイヌの文化を紹介したり、研修でお世話になっているアダプティブスポーツ施設で HOKKAIDO ADAPTIVE SPORTS の活動を紹介したり、活動における課題をお話し、アドバイスをいただいたり、こちらから発信する機会も徐々に作れています。アメリカのプログラムを学ぶのはもちろん大切ですが、それと同時に日本、そして北海道の活動もたくさん発信し、知ってもらうこと、そして今後繋がるつながりを作っていけるよう頑張りたいと思います。

